参考資料1

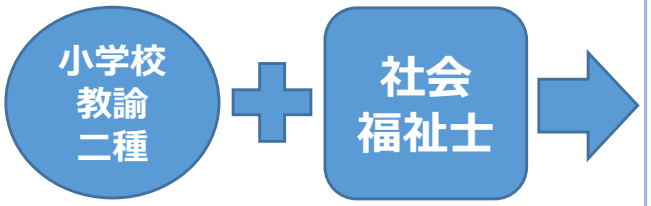
淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 福祉教職コース
「教育と社会福祉の専門性を持ち、児童のウェルビーイングを目指す教員養成課程」

淑徳大学 SHUKUTOKU 共に歩む これまでも これからも

Ⅰ．本教員養成課程の背景・目的

多様な背景を持つ児童や不登校児童の増加といった課題や、**様々な問題を抱える家庭への対応**といったことが求められていることから、教員は一人ひとりに寄り添った、誰一人取り残すことのない教育が必要である。これらの背景から、淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科福祉教職コースは、**教育（小学校教諭二種）と社会福祉（社会福祉士）の専門性を身につけ、理論と実践を融合した教員養成**を目指す。特に**社会福祉士の素養を持つことは児童一人ひとりのニーズに適切に対応し、包括的な支援として迅速にスクールソーシャルワーカーなどの各専門家に繋ぐといった対応**が期待できる。

教員養成課程の特徴



教育と社会福祉の専門性を持ち、児童一人一人に向き合い、児童のウェルビーイングを目指す教師

Ⅱ．教育養成課程の強みや特色・相乗効果

○**対人支援の専門職であるソーシャルワーカーとしての資質を身に付ける**ことにより、**小学校教諭として児童との豊かな対人関係の構築に資する**ことができる。また、**児童のSOSをいち早く察知し、一次対応者として、あるいは他の専門職へつなぐ役割**が期待できる。さらに、地域共生社会を標榜する社会福祉の専門性は、教育の専門性と相まって、教室内での多様性への理解と対応力が向上し、すべての児童が互いを尊重し合いながら学ぶ環境を実現できることが期待される。

○子ども家庭、障害、高齢、生活困窮等の多様な福祉分野の専門知識や支援方法に関する学びを修めることで、**様々な背景をもつ児童一人ひとりのニーズに応じた適切な対応を小学校教諭として自ら展開する**ことに加え、**小学校における組織的な取組を推進**することができる。

○地域支援（コミュニティ・ワーク）に関する専門性をもつことで、学校における地域社会との連携の推進に資することにより、**児童が社会の一員として成長するためのプログラム等を立案・実施する**ことが可能となる。こうした活動は、児童の地域社会への帰属意識や地域貢献の意識醸成に資するものであり、社会的スキルの向上を促すことにもつながると考えられる。

○福祉現場での豊富な実習等の経験を通じ、福祉に係る行政及び団体との関係性を有することにより、**学校において福祉的支援の必要性が生じた際に、学校と福祉関係者の協働を促進する**ことができる。

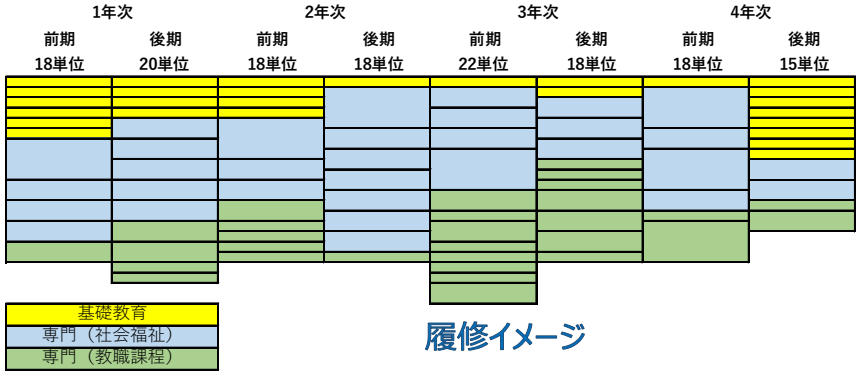
○本学附置の「社会福祉研究所・発達臨床研究センター」において身に付けた**障害児療育（発達支援）に関する知識・技術**は、近年増加する**発達障害児に対する支援**を学校において実施することができる。

Ⅲ．特色を身につけた教員養成の課程内容と工夫及び支援

○基礎教育科目、専門科目（主要授業科目、社会福祉士関連科目、教職課程科目）を体系性・順次性をふまえ、資格や教職課程の実習時期なども加味して、バランスよく配置している。

○社会福祉士科目の一部実習科目を除き、半期18単位を履修登録上限とし計画的な履修を推進する。またアドバイザー教員による面談を経て、学部長の承認の上、GPA3.0以上で半期2単位追加、GPA3.5以上で半期4単位の追加履修登録をすることが可能。

○担当アドバイザー（専任教員）、教職関連センター（実習教育センター等）が連携して学生支援を行う体制を構築している。また学生が抱える課題によっては千葉キャンパスに配置した**キャンパスソーシャルワーカーが対応**する。



履修イメージ